

羅臼地域

指定基準	講評
<p>イ．当該地域マリンビジョンが、地域のポテンシャルを活かすとともに個性ある計画となっていること。</p>	<p>羅臼地域は、羅臼のホッケなどの羅臼ブランド、世界自然遺産である知床地域、海洋深層水など固有の地域資源を活用し、オール羅臼地域として「さかなの城下町」をつくっていくというコンセプトとなっており、地域ポテンシャルを活かした個性ある計画となっています。さらに、より良いビジョンとしていくためには、厳冬期の産業、生活のビジョンについて検討していくことが考えられます。</p>
<p>ロ．当該地域マリンビジョンが、独創性、先駆性、広域性のいずれかが認められるとともに、他地域モデルとして見込め、北海道マリンビジョン21の具現化に資する計画となっていること。</p>	<p>計画内容については、低温清浄海水（海洋深層水）を活用して高度な衛生管理・鮮度保持向上の取り組みを行うことなどを通じて羅臼ブランドを高める戦略が盛り込まれているほか、流通対策、水産加工業振興も総合的に講じられており、ビジョンに先駆性が認められます。</p>
<p>ハ．当該地域マリンビジョンが、地域協議会の十分な議論・調整を踏まえた計画であること。また、地域マリンビジョン策定後であっても、適宜地域協議会において当該地域マリンビジョンの円滑な推進を図る計画となっていること。</p>	<p>協議会はオール羅臼という構成になっており、行政、漁業関係者のみならず、あらゆる産業界から参画しています。また、一般の町民も入った「まちづくり委員会」でもマリンビジョンの議論がなされており、全町的な議論の結果で現行計画が策定されたと評価できます。</p>
<p>ニ．当該地域マリンビジョンに位置付けられている拠点漁港が、北海道マリンビジョン21の趣旨に鑑み、計画において拠点漁港のいずれかに該当すること。</p>	<p>将来ビジョンの実現を図るために、羅臼漁港は衛生管理流通拠点および都市漁村交流拠点としての機能を有しています。水産業振興構想と水産基盤整備との連携をより明確にしたり、地域資源と地域の人を活かす土地の不足を水産基盤整備で補うことを検討することによって、よりモデル性が高まります。</p>
<p>ホ．地域マリンビジョンの実現に向けた取り組み内容が各実行主体ごとに明確になっているほか、それらの取り組みが地域において継続的に行われる等、地域マリンビジョン及び取組主体の熟度が認められること。</p>	<p>構想実現に向けた取り組みは、実施時期、実施主体が明確であるほか、追加調査による進捗状況の評価を行うなど、適切なフォローアップ計画が定められており、ビジョンの実効性が確保されています。外部の有識者との交流を持ち、外部からの意見を反映する体制があれば、さらにより良いものとなるほか、フォローアップ体制をマニュアル化すれば、より実効性が確保されると考えられます。</p>